

特別墓参



古釜布墓地での集合写真



紗那墓地での慰霊

航空機はロシアのチャーター便を利用し、7月22日に中標津空港を出発し、国後島内空港で手続を行いました。その後、国後島班と択捉島班の二つのグループに分かれて、それぞれの墓地に向かいました。昨年は悪天候による中止等がありましたが、今回は無事慰霊式を行うことができ、国後島班は友好の家に宿泊、択捉島班は紗那のホテルに宿泊して、翌日、無事に中標津空港に戻りました。団員からは「飛行機による墓参は体力的に楽だ」「1泊することで時間にゆとりができた」「飛行機の墓参を今後も継続して欲しい」という肯定的な声が多くありました。



中標津空港での出発式



使用した航空機

特別墓参について

特別墓参は、元島民の平均年齢が高齢化しているということで、元島民の方々の身体的負担を少しでも軽減するという人道的観点から、これまで船を利用して四島に渡って行っていた墓参を、船の代わりに飛行機で四島に渡り墓参を行うものです。

昨年度に初めて、航空機による北方領土特別墓参(国後島、択捉島)が9月23日に実施されました。

平成30年5月の日ロ首脳会談において、昨年に引き続き、航空機を利用した特別墓参を実施する事が合意され、7月22日～23日の1泊2日の日程で実施されました。

平成30年度における特別墓参実施状況

実施月日	島名及び訪問地名	団員数
7月22日～7月23日	国後島(古釜布墓地、近布内墓地)	44名(うち遺族29名)
	択捉島(紗那墓地)	26名(うち遺族10名)
	計	70名(うち遺族39名)